飯沼観音周辺

門前町として発展。銚子のエンターテインメントの中心

▲昭和８年、市制施行当時の飯沼観音周辺
大衆娯楽の中心地。サーカスをはじめ、年中見世物小屋が。境内には無声映画館もあり、「活弁」といわれる映画説明者が一流の名調子で観客を魅了した

▲近年の飯沼観音周辺
道路や銚子銀座通りココロードが整備された。
「観音夜市」や「グリーンマーケット」など、飯沼観音の境内でイベントが催され、新たな賑わいを作っている

「ここが、銚子１番の遊び場。」

観音に行くときは、「銚子行ってくる」という言葉が使われていた。銚子駅前よりも、どこよりも賑わった。
特に、旧正月には、サーカスや大道芸人が登場し、興奮した人で溢れかえった。
時代が変わった今、飯沼観音で新たなイベントが開かれていることが嬉しい。縁日でお祭り気分を味わって、周辺を散策してみるのも良い。この町も形を変えている。商店街も、後の時代に繋げていきたい。

飯沼町　石毛呉服店　石毛和男 さん

銚子大橋

当時は赤かった、国内最大級の橋

▲昭和37年　銚子大橋開通
当時は有料（波崎町側に料金所設置）。昭和49年に無料化
《自動車120円、軽自動車20円、自転車10円、徒歩5円》
※無料化直前の料金

▲平成25年　２代目銚子大橋が全線開通
歩道が整備され、散歩やジョギングで利用する人も増えた

「定着した、赤い橋の八百屋さん」

橋の完成後、この辺一帯が活気に溢れていた。人の往来が増えてみんな橋を目印に買い物に来るようになった。当時の大橋は赤くてインパクトも強く、お店を覚えてもらえた。橋ができる前は、渡し船で川を越えて買い物に来てくれる人もいた。いつまでも、橋の下の八百屋さんとして地域に馴染んでいきたい。

大橋町　鈴木青果店　鈴木千尋 さん（左）　光代 さん（右）

外川の街並み

イワシ漁で、「外川千軒大繁盛」と言われた漁師町

▲本浦通りの石畳
外川港から坂の上の干鰯（ほしか）場にイワシを運ぶ産業道路。雨でぬかったり、滑ったりしないように石畳にされた。
（干鰯：イワシを干して固めたもの。アブラナなどの肥料に最適）
朝の連続ドラマ「澪つくし」の舞台にも。
現在も、どこか懐かしさを感じられる観光スポット。
2019年、有志により結成された「外川ふんわり会」が外川の魅力を観光客や市民に発信している

「坂は人で溢れていた」

坂にはエピソードが多い。「登るとお産が楽になる」と、妊婦さんの間で流行った。大潮祭りでは子ども神輿四基が登った。とにかく賑やかで楽しかった思い出。
本浦通りの駄菓子屋さんには近所の子どもたちが押し寄せた（写真左のお店）。「澪つくし」をはじめ、多くのロケが行われる。懐かしさを感じられる古き良き坂の町。ふんわり会で作ったマップを片手に散策しませんか。

外川町　ほまれ理容室　野本春道 さん

国民体育大会

昭和48年 若潮国体｜平成22年 ゆめ半島千葉国体

❶聖火リレー、市役所から出発
❷昭和天皇・香淳皇后がご臨席
❸超満員の銚子市野球場
❹銚子商業が作新学院を決勝戦で破り優勝

❶❷春の県大会を国体のリハーサル大会として開催
決勝戦は「銚子商業 対 習志野」。外野席まで人で埋まった
❸❹試合前には長蛇の列。沖縄県の興南高校が甲子園を春夏連覇、国体にも注目が集まる。

「銚子と言えば、野球だった」

当時は野球王国千葉、野球王国銚子の名が轟いていた。銚子を出ると「野球が強い所だよね？」と聞かれた人が多いのでは？
若潮国体、作新学院の江川の巨大なお尻も印象に残るが、一番は、昭和天皇のお車にファールボールが当たったこと。打ったバッターは、後に、阪神に入団した植松選手。本当にすごい大会だった。平成の千葉国体は、野球協会の理事長として、全国のチームを迎え入れた。長蛇の列が懐かしかった。
先代の銚子球児が築いた野球の熱を百周年まで繋ぎたい。

銚子市野球協会　会長　小林正雄 さん